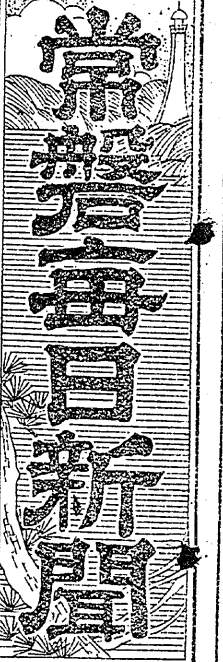


刊夕日一月二十



刊日 定價一部金... 發行所 常磐毎日新聞社

救護法に就て [上]

平町共済會委員 門傳清吾

次に右本則的救護方法たる自宅救護の來ぬ者に對しては收容救護を以てすることになる例へば孤立無援の老人とか孤兒の如きもので、是等の者は救護すべき自宅を有せないのであるか又は自宅があつても自宅救護は非常に經費を要するとか不相當なる設備を要するとか或は幼者に對する母の行狀が悪い時例へば幼者の救護費を他の目的外の方面に支出するとか或は幼者を虐待する者等は自宅救護を適當とせぬから自然之を救護施設即ち第三章に於て説明せる養老院、孤兒院、病院其他本法に依る救護を目的とする施設機關に收容し、或は收容を委託し、或は私人の家庭に委託して救護することになるのである。即ち

第十三條 市、町、村長は居宅救護を爲すこと能はず、又は之を適當ならざると認むるときは、救護を受くるものを救護施設に收容し、若しくは收容を委託し、又は私人の家庭若しくは適當なる施設に收容を委託することを得

但此場合注意を要するは生業扶助が尤も適當なことであり、而して縣社會課の説明では、此場合の扶助額は、一人參拾圓以内であらうとのことである。それから市、町、村長が被救護者の親権者、又は後見人の意思に反して第十三條の處分を爲し得る場合がある。即ち左の如し第十四條 市、町、村長は救護を受くる者の親権者又は後見人が、適當に其の權利を行はざる場合に於ては、其異議あるときと雖も、前條の處分を爲すことを得

と規定しあるが、此場合問題となるのは、即ち親権者又は後見人が被救護者に對する保護權を適當に行使して居るか、否かの問題である。

常磐六藝 大竹秋平 自からの思ふ術なく夕暮來て街去り行く友に心残れり 秋風に舞子の海にまよい來てあゆむなぎさのぬれ石の上 我が心ひそかに泣きぬ離

り行く車窓にちいさき君の泣顔 朝な夕にと文で語らひし昔し想ひて戀しかりけり 〇ふと目覺君を想へばかそ



貨切は... セダン揃ひで 貸切専門の 昭和タクシーへ

電話三四三三

外科 門專 X 科線光 上田外科醫院 平町南町 電話二一九番

吉田眼科病院 平町星町 電話六八番

月一回を誇る超特別大興行 十二月四日より堂々大公開 戦線 藤栗毛 八巻 東亞キネマ會社超特作時代劇

カエすらもすゝれぬ 悲惨な家庭が四十餘

此の歳末をどうして過ごす

平同潤會が救済協議

平町方面委員の猪狩庄平、門傳清吾、大森勇の三氏が調査した處に依ると

全く金の入る道がないと三度の粥すら容易でないといふ下級社會の悲惨な家庭が四十餘戸ある由にてそれ等の家庭に對しては平同潤會を始め各篤志家の同情義金に依つてその都合救助して居たが愈々切迫した歳末及び

祝ふべき正月にも餅もつけずに居る様な現情を哀れと思ひ同潤會は此の救済を協議せんと来る十二日午後七時より平町役場に於て評議員會を開くべく本日會長青沼鋒太郎氏の名に依つて招集狀を發したと

石城出身の

縣議宿所

縣會開會中に

石城郡選出各縣會議員諸氏の縣會開會中に於ける福島市の宿泊所左の如くである

- △井上茂作、辰巳屋△萩原義雄、金源△赤坂毅一
- 藤金本店△石川徳壽、金源△野崎滿藏、平松館△田子健吉、霞内前一二

豊間有志

本日出縣す

漁港補助は

同村の死活

石城郡豊間村漁港の改修工

日本よ……
左様なら
愈々南米へ……
佐藤とら

皆様に送られて平驛を出發しました十一月五日、私し等は決してわすれる事の出來ぬ日御座います、私は平町を出る時風邪を引きましたのが廿日迄直らず床の中に臥りまして廿一日東京

發午前八時四十分にて途中無事三の宮驛に夜るの一時半頃着きました、廿三日には收容所に入り正雄(長男)勝男(甥)の眼を案じつ、検査を受け無事に入所する事が出來たのです。プラザにお出になる方はトラホームは完全に治療しなければなりません、トラホームこそなければたいいての人は大丈夫です。收容所に入りまして本當に行届いて居る事は驚く他はあ

事は村費三万五千圓を以つて明七年度の縣補助交付を當てこみ着工したが縣では補助費を跳ね付けた爲め事業繼續に一頓坐を來たし工費の全村支出は全々不可能である爲め同村では死活問題である

返済された生業資金

僅かに三圓八十五錢

他の大半は何れも

生活費の中に食ひ込む

生活苦を擔つて呻く悲惨な人々を救済する爲め平町に設立されてある同潤會は各寺院僧侶の托鉢に依つて得た淨財や其他の寄附金を積んで是れを救済資金に當てりません、收容所のかゝりど色々と用務が御座いますから一寸の暇も有りません五日間はとて忙しいので、講話も御座います、子供會、ラジオ体操、婦人講習會、家長會、水上署旅券鑑定、荷物の検査、ブラジル活動寫眞、實寫、餘興其の他に種痘、チブス、コレラ、注射等御座います。それに入浴もよくてはなりませんし、食事は一度に五

題であると爲し同村漁業組合長馬目常吉氏外数名は補助申請陳情の爲め本日平驛發午前五時四十二分列車で出福した

みりの會に
内村教諭の
料理法講演
平町人座談會改稱みりの會は來る十二日午後七時から南町日本基督教會に於て講演會を開き磐城高等女學校舎監内村教諭の料理に就いての講演と實習があり一般來聴を歓迎すると、會費十錢

其他は折角借りた生業資金が生活費に食ひ込まれてどうにもうごきかたぬ模様であるといふ
統計講習會の
講師派遣申請
既報平町役場統計委員が主となり統計講習會並びに事務指導會を開かん爲め豫て

各方面へ出席方勸誘中の處最近内郷、好間、赤井、川前、渡邊の各村委員が出席する事に決定したので平町團体事務所樓上に於て十二月八日は統計講習會翌九日は事務實地指導會を開催する事になり本日平町役場より講師の派遣方を縣へ申請した

けふ平町役場で 磐炭礦區の評定

伏見町長は反對し 飯野村長は稍同意

平町新川以南耕地及び飯野村に及ぶ磐城炭礦の採炭礦區
實地踏査は昨報の如くにて本日午前十時から平町役場に安田仙臺監督局技師を始め其他調査員の一行が參集懇談を遂げたが伏見町長は前年の不同意上申書に基き市街地に影響ありと主張して 反對の意志を示し伊藤飯野村長は水源涸渇の保障を得ば同意するも差支へなしと述べ正午頃散會したが果して鑛山監督局が右鑛區を許可するや否やは今回の踏査を

平町人事

△田町一六 鈴木光四郎氏長男雅光
△五丁目二六 當時東京府下南葛飾郡松江町東小松川春日朝雄氏長男 敬義
△南町一九 當時石城郡宇宮ワッ井ツル(三五)
△紺屋町二六 飯塚信男(二六)

平職業紹介所便り

▲求人部
△車力 四十才前後、給料面談(紺屋町運送店)
△女中 二十才前後、月給五圓(五丁目某)
△旅館番頭 三十才前後、面談(平旅館)
▲求職部
△配達夫 廿一才、高卒、(仙臺市)
△商店雜役 二十四才、高卒(赤井村)
△外に雜夫二名、土着三名

往來
△石川縣議 卅日午後四時
△萩原縣議 卅日下り準備
△井上、野崎兩縣議 朝

これからの食物は……

美味。安の價。くし味美

鳥小焼

南町 鳥菊

番六八二話電

難波醫院
平町新川町
【釜屋新宅向】
電話五〇二番

美味！
芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

弟の

嫁にするとして

朝鮮へ藝者に

音信がないので不審に思った
父親驚いて告訴

石城郡磐崎村字湯長屋鈴木茂吉(○)は九月以來同人の實弟庄大(ニ)が

内郷村 大字内町字水出里見象吉の娘八重子(一)と懇意の仲であるのを奇貨と一先づ娘を當方へ寄込して置いて貰ひ度いと言葉巧みに象吉を納得させ八重子を引取つたが其後娘からは何等の音信がないので

不思議に思つた象吉がだん／＼調べて見ると意外にも茂吉は八重子を朝鮮方面に藝者に賣り飛ばしたと判り驚いた象吉は本日平署に誘拐の告訴を提起した

三部の理?

懲役言渡が 不服で上告

泥棒にも
去月十三日夜十一時半頃茨城縣助川驛前某呉服店より衣類卅反を窃取し逃走石城郡小名濱町明神町木賃宿小松作太郎方に潜伏中を平署員に檢舉された茨城縣木田町生れ窃盗前科六犯鈴木亥之吉(○)は昨日平區裁判所にて公判開廷懲役三年言渡されたが被告は是れを不服として福島地方裁判所へ上告したと

慰問金

平理髮組合の慰問金
婦人部有志が

昨夜から今朝かけて
奔走募集した二十圓

平理髮組合員中の結髪や美容術等に從事して居る婦人部の左記有志

- 白銀町黒井ミ、二丁目
- 會田タミ、田町吉田ミサ
- ホ、白銀町水野フ、二
- 丁目手塚トヨ、田町上坂
- 武子、同佐藤ミネ、同鈴木ハツ

の如く語つた

一昨晩急に相談を極めまして昨晩と今朝同業者間を駆け廻つた次第で金額は誠に不恥しいのですが私共の感激に満ちて居る此の誠意をお國の爲めに働いて下さる人々に届かせたいと思ひます

尙ほ寄附金帳には發起人が五十錢宛の外左記の如く記されてある

- △五十錢 坂本豊勝、佐々木フク、荒木忠吾、吉村フサ、芳香園、宮川幸吉、渡邊清美、石崎ケイ子、高木貞雄、萩原敏子、中條フサ、木ノワカ木村由三郎
- △三十錢 若松徳彌、渡邊ヨシ、根本辰夫、齊藤傳七、坂本ヨシノ、猪狩ヨシヤ、柏助權治郎
- △二十錢 三富菊藏、鈴木理髮店、白士武雄、板倉トメノ、柴崎八千代、鹿島要助、鈴木喜久代、早川ケサノ、鈴木夫藏、藤又トモエ、馬上ツル、渡邊スエ、中山ジン、吉田ちる子、木村キク子、飯塚春夫、宮崎信一、佐藤マツ、梅原竹子、大平カツ、安藤かもし店、小野フク子、大平ヨシ、大

續々慰問金品

平町南町青年團の貯蓄會員坂本爲一君外五名は在滿兵の爲にと金五圓をまた一丁目常盤屋時計店內大竹正吉君外三名も一圓八十錢を立町の根本千代子さんは慰問袋二箇をそれ／＼町役場へ寄贈し來た

小國民の熱誠

積んだ小使錢を
出征軍人に献ぐ
平町南町青木寫眞館主息青木敏夫(○)さんは先般同町歩兵一等兵小泉勝廣君が滿洲駐屯に出征の爲め出發の際子供ながらも胸を躍らし父親の袂にすがつて『僕のお小使を積んだ金を差上げたい』とて早朝寒氣を衝いて平驛迄送りし車窓の小泉君に可憐な手から金一封を献げ並居る見送りの人々を感動せしめた

在滿兵の

家族慰問
飯野村
長伊藤淺之助氏並に同村在郷軍人分會長鈴木秋光の兩氏は本日同村出身在滿出征兵三名の家庭を歴訪家族を慰問し慰問品を贈つたと

明日のラジオ

今晚の部

- 後六、〇〇 (子供の時間) 童話「太郎の貰つた仔犬」上遠野龍兒
- 後八、〇〇 ヴァイオリン 獨奏ニコライ・シフニル
- ブラッド・ピアノ伴奏リ
- 後八、三〇 ロール・カル管絃 樂 東北帝大 第二高等學校聯合管絃樂團

明日の部

- 後九、〇〇 料理献立「ポイルドサーデンスチュード」中村康子
- 前二、〇〇 婦人講座 井伏鱒二

後九、〇〇 連續講談「轍院院長兵衛」第一席 神田伯山
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報

今晚も明日も北西風の風晴れたり曇つたり

手紙を添えて

少年のまごころ
石城郡好間村第一小學業三年生植野正一(○)君は昨日お小使を貯金して置いたうちから二圓八十五錢に左の如き書面に添て村役場へ贈つて來た

山の中で鶏を料理

盗品を風徐にして
前科四犯の盜賊
植田町を中心附近町村に瀕發した食品泥棒につき植田署で内偵中のところ二十七日田村大字大平山林内で鶏を山と積み窃取した鶏を料理中の男を不審と認め嚴重取調の結果勿來町窪

コン泥の本性發揮

一度許されても改心せず
署の門を出ると又始めた
既報石城郡好間村字荷下鈴木芳吉方臺所から御飯三升餘を盗んだ南會津郡伊北村字笠生れ住所不定目黒平三郎(○)は微罪として説諭の上一先づ釋放されたが少しも改心せず昨昨日午後四時頃内郷村大字白水字畑大野

神谷の義捐金
石城郡神谷村から滿洲に三名出征してゐるので今回在郷軍人分會、消防組、男女青年團、村民が協力して慰問品眞綿、チヨッキ、洋服、タバコその他多數を二十九日發送した

後〇、〇五 マンドリン獨奏と五重奏 松井龍三外

後二、〇〇 家庭大學講座「論理學」早稻田大學教授中桐確太郎

後六、〇〇 (子供の時間) 獨唱長谷山雛菊童謡會員

後六、三〇 英語講座 初等科 寺西武夫

後七、三〇 講演「滿洲より歸りて」安部季雄

後八、〇〇 薩摩琵琶「常陸丸」齊藤岳峰

後八、三〇 義太夫「戀女房染分手綱杏掛村の段」

浄瑠璃竹本和蝶 三味線 野澤吉三

後九、〇〇 連續講談「轍院院長兵衛」第二席 神田伯山

裁判所に於いて懲役三年言渡された

